

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	大竹市
-------	-----

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の初めのページに「学習の流れ（見通す、取り組む、ふり返る）が示されていて、学習の見通しをもてる。</li> <li>○教材の初めのページの二次元コードで関連する既習の学習内容も示されており、既習事項の活用を意識できる。</li> <li>○学習指導要領における「第3学年及び第4学年の内容の第3学年で学習するローマ字の読み書き」に関して、第3学年で2回、第4学年で1回扱われており、タブレット端末の活用に関しても、「キーボードで入力してみよう」（二次元コード）として3・4学年で複数回学習できるようになっている。</li> <li>○第6学年では、巻頭で紙のノートの作り方と共にデジタルノートの作り方も掲載されており、二次元コードで実際に使うことができる。</li> <li>○第1学年の促音、長音、拗音の学習ではMIM（多層指導モデル）を取り入れ、音と文字の関係を体感的に捉えるようするなど、入門期のひらがなの指導がていねいになされている。</li> <li>○物語文では、「なぜ」の問いで事実を基に解釈させる発問、登場人物の変化を問う発問など、読解力を培う発問も示されている。</li> <li>○主体的な学びを促す上で、教科書として適切である。</li> <li>○指導者側の観点から見て指導しやすい。</li> <li>○学習用端末の活用が広がる中、2学年にわたってローマ字入力の指導が組まれている。</li> </ul>
書写	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆では、筆の中に顔が描かれているイラストによって、穂先の向きを意識して書くことができるように工夫している。</li> <li>○毛筆の点画の種類が第3～6学年の巻頭に掲載されている。「とん」「すう」「びたっ」という共通した擬態語で書き方が示され、毛筆の運筆が丁寧に指導されている。</li> <li>○左利きの鉛筆の持ち方が大きな写真で示されている。（第1・2学年）</li> <li>○毛筆の用具の置き方、準備、片づけが見開き2ページで第3～6学年の巻頭に示されている。</li> <li>○「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふり返ろう」のマークで学習活動の流れが明確に示されており、「書写のかぎ」を生かして次の学習活動に入れるようにしている。</li> <li>○巻末の「学習した漢字」全てに読み仮名が付いている。</li> <li>○第3学年の「点画の名前」で「横、たて、点、おれ、はらい、曲がり、反り」の書き方が毛筆・硬筆の両方で示してあり、書写の時間全体で活用できる。</li> <li>○指導内容がていねいに示されている。</li> <li>○国語科との関連が大きいので、児童が学習しやすい。</li> </ul>

種 目	発行者	採 択 理 由
社会	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の初めの「つかむ」（つかむ、調べる、まとめる サイクル）で、学習問題作りのために事実としての資料などが複数掲載されており、問いが児童から生まれるように工夫されている。</li> <li>○第5学年で「上・下」、第6学年で「政治・国際編」と「歴史編」に分冊され、運びやすく使いやすい。</li> <li>○「なぜ」の問いで推測し、資料などで調べて検証する科学的探究の学習方法を取り入れている。</li> <li>○産業学習では、利潤追求の視点で社会の仕組みを学習させるように問いを工夫した学習過程となっている。</li> <li>○第3学年スーパーマーケットの店内の様子を図で、ゴシック体ではっきりと売るものの名称が示され、売るものの絵もはっきりと描かれている。児童目線でのていねいな資料提示がされており、学習課題を生み出しやすい。</li> <li>○学習問題が示され、それを解決するための下位の問いが構造的に示されている。</li> <li>○単元末の「まとめる」では、単元初めの学習問題を確認した上で、キーワードをもとに思考させた上でまとめるつくりとなっている。</li> <li>○資料等が見やすく、写真やイラストが鮮やかである。</li> <li>○学習課題を生み出しやすい資料提示がされている。</li> <li>○地元の産業を扱っている。</li> </ul>
地図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「世界と地球儀」では、地球儀の使い方を写真と文字だけでの説明ではなく、二次元コードによる動画を用いて立体的に理解できるように工夫されている。（距離・面積・方位の調べ方を掲載）</li> <li>○第3学年から使用しやすいように、「地図の世界へようこそ」「地図の約束」など、大きな文字や大きな図で分かりやすく作られている。</li> <li>○P. 21からの日本の地方別地図は、「広く見わたす地図」として地図入門期にも分かりやすく、文字なども大きく作られている。P. 33から詳しい地図が表示されている。</li> <li>○全体的に色合いが淡く、とても見やすい。色使いや都道府県、国の区分の線、海の色も分かりやすい。目的に応じて色使いが変えてある。</li> <li>○さくいんは、色分けされ、分かりやすい。</li> <li>○資料の雨温図では、降水量の一番多い月は色の濃い棒グラフで示しており、気温は最高と最低の月を数値でも示している。</li> <li>○導入段階と高学年で地図が2種類用意されているなど、学年ごとに主体的に学べる工夫がされている。</li> </ul>

種 目	発 行 者	採 択 理 由
算数	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学的な見方・考え方の育成を重視したつくりとなっており、マーカーで手がかりが示してある。</li> <li>○関係図の活用が児童の思考を助けている。(他者は線分図のみ) (例) 第6学年 P.43～ 分数×分数 P.56～ 分数÷分数</li> <li>○第1学年の数の構成が5といくつで表されており、分かりやすい。 (算数セットもこの形となっている。他者は10のかたまりで表している。)</li> <li>○二次元コードには、何の二次元コードか文字で記載しているので、分かりやすい。</li> <li>○表や図などの書き込みスペースが大きく、使いやすい。</li> <li>○問題解決のためのヒントなどが詳しすぎず、教員の裁量に任せられる点が多い。</li> <li>○事例及び図が、児童が思考しやすいものが示してある。 (例) 第6学年「分数÷分数」P.57 <math>3/5 \div 1/3</math> 計算のしかたの説明及び計算の仕方の図が複雑ではなく分かりやすい。</li> <li>○スタートブックが導入期の1学年にとって、分かりやすいつくりになっている。「わくわくスタート」の見開きで、これからの算数の学習への見通しがもてるようになっている。</li> <li>○算数を身近に感じる工夫がなされている。</li> <li>○単元の導入部分で動画等を活用し、分かりやすく示されている。</li> </ul>
理科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験器具の使い方が、巻末ではなく使用する単元のページにあるので、すぐに確認することができる。</li> <li>○実験器具の使い方や観察の手順が具体的に分かりやすく示されている。</li> <li>○どの単元にも最後に「くらしとリンク」というテーマで学習したことが生活に生かされている場面が出てくるので、発展的に考えることができるようになっている。</li> <li>○巻末に「かく」「伝える」「しせつの活用」「理科につながる算数のまど」「ものづくり広場」「理科の見方・考え方」という資料がある。「理科の見方・考え方」では、問題解決のための見方・考え方を振り返るようになっている。さらに漫画を通して理科の見方・考え方が日常生活に役立った例を確認できる。</li> <li>○「問題をつかもう」では、見つけた「不思議」について、児童の話合いから問題を見つけることができるようになっており、ポイントとなる言葉にはマーカーが引かれている。</li> <li>○日常生活に関連する科学的事象について「はじめに考えよう」として示し、学習内容を使って単元末に説明させるつくりになっている。科学的見方・考え方が習得及び活用できたか評価もできる。</li> <li>○日常生活と科学との関連が図られており、理科好きな児童を育てる内容となっている。</li> </ul>

種 目	発行者	採 択 理 由
生活	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「かつどうべんりてちょう」が本体に組み込まれ、なくさない工夫がなされており、見開き2ページで項目ごとに分かりやすく整理されている。</li> <li>○「つながるこくご」「つながるさんすう」として国語や算数と関連付けた表示があり、生活科の学習と他教科との関連を意識した指導ができるようになっている。</li> <li>○「おもちゃ図鑑」で基本的なおもちゃの作り方6種類を紹介し、さらに児童が何かに見立てて、工夫して創作できるような余地を残した例示がされている。</li> <li>○二次元コードでは、クイズや植物図鑑、花の残し方、秋植えの植物の画像や植物の世話の仕方・花の咲く様子・種の植え方の動画もある。「おもちゃ図鑑」に係る動画では、動くおもちゃの様子などもあり、児童が動く仕組みを理解しやすい。</li> <li>○児童が興味をもてる工夫がなされている。</li> <li>○児童の発達段階に応じた学びが設定されている。</li> </ul>
音楽	教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末の「振り返りのページ」に、各学年で学習した音楽を形づくっている要素を関連するページ番号とともに示しており、知りたいことをすぐに確認できるようになっている。</li> <li>○楽器の扱いについてのコラムで「手入れの仕方」を説明している。(例) 第1学年P.43 鍵盤ハーモニカ「ホースを洗う」 第3学年P.27 リコーダー「ガーゼでマウスピースの手入れ」</li> <li>○リコーダーで立奏だけではなく、座ったときに吹く姿勢も提示している。</li> <li>○単元名とめあてがセットで示されており、何を目指して学習するのかが分かりやすい。</li> <li>○「歌声ルーム」というコラムでは、イラストを用いて学年の発達段階に応じた歌い方のポイントが分かりやすく示されている。</li> <li>○「タンギングと息の使い方」について、詳しく説明している。</li> <li>○児童が音楽活動をしっかり楽しめる工夫がなされている。</li> </ul>

種 目	発行者	採 択 理 由
図画工作	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○育てたい資質能力を3つのキャラクター（くふうさん（知識・技能）、ひらめきさん（思考・判断・表現力）、こころさん（学びに向かう力、人間性など））で児童に親しみやすく示している。</li> <li>○学習のめあての中で重点的に付けたい力の下に線が引いてあり、キャラクターの吹き出しで、児童に意識させている。右下の振り返りとも整合性がある。</li> <li>○導入の二次元コードが全ての単元にある、内容の動画が教材や学習内容への関心を高めるものになっている。</li> <li>○「つながる造形 美術館をたのしもう」では、美術館の活用の仕方や利用の際の注意事項など、分かりやすく示している。</li> <li>○巻末の「学びの資料」では、道具の使い方を写真と絵を効果的に使い分け、分かりやすく示している。</li> <li>○単元で使用する準備物が見開き左上に分かりやすく示されており、準備する保護者などの協力が得やすい。</li> <li>○児童の作品紹介が単調な表示とならないよう、構図を工夫して示してある。</li> <li>○作品をつくっている児童の写真の表情が生き生きとしており、作品をつくる意欲付けにつながる。</li> <li>○絵や写真がふんだんに使われており、レイアウトに工夫があるので、児童の感性を高めることにつながる。</li> <li>○タブレットの活用場面が多く、イメージをわきやすくしている。</li> </ul>
家庭	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての大題材のタイトル横に視点を示すとともに、キャラクターの吹き出しによって、見方・考え方に気付くための課題を投げかけている。</li> <li>○二次元コードによる調理などの動画が、適度な内容と時間によって分かりやすくつくられている。</li> <li>○夏休みにも学校での家庭科の学習を活かした生活ができるように、1学期に学習した内容でヒントを与え、発展的に学習に取り組めるように示している。</li> <li>○ミシンや裁縫に使う道具の名称や使い方を分かりやすく示している。</li> <li>○単元名がこの単元で何を学習するのかが分かりやすいものとなっている。</li> <li>○調理器具などの紹介がまとめてされており、使い方の説明は実際の使用場面で示してある。</li> <li>○単元名から何を学ぶのか、どう活動するのかが分かりやすくなっている。</li> <li>○デジタルコンテンツの中に、左利きの児童への配慮がなされている。</li> </ul>

種 目	発行者	採 択 理 由
保健	東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての単元の学習の進め方が「1 気づく・見つける」「2 調べる・解決する」「3 深める・伝える」「4 まとめる・生かす」の4つのステップで明確である。</li> <li>○「3 深める・伝える」では、学んだ知識を活用して事例を考え、説明させ、思考・判断・表現力を養うようになっている。</li> <li>○現実的で具体的に考えさせる問いが多い。</li> <li>○記述できる箇所が豊富であり、単元の導入に書き込んだ「メモ」の記述と、最後の「まとめる・生かす」の記述を比較することができるなど、児童の考えの変容を見取ることができるように工夫されている。</li> <li>○二次元コードからの資料が充実している。視聴覚に訴え、学習内容をより深く理解できるようになっている。</li> <li>○学んだことをこれからどう生かしていくかという道すじが児童に分かるような工夫がされている。</li> </ul>
英語	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第5・6学年の教科書ともに、巻末にCAN-DO リストがCAN-DO チェックとして、単元ごとの表で示されている。</li> <li>○CAN-DO リストは、4技能ごとに「わかる」「使える」の視点で、3段階チェックになっており、色を塗り、コメントを書くようになっているため、学習内容を具体的な視点で振り返りやすい。</li> <li>○別冊でワードリストが「Word Book」として各学年1冊ずつある。カラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。ジャンルごとに二次元コード（発音）がついている。</li> <li>○見開き2ページで、4技能5領域の学習活動がバランスよくできるように構成されている。</li> <li>○書く活動が適度に示されている。聞く・話す活動の後に音声を聞きながら文を指で追う活動を経て書く活動が取り入れてあり、無理なく書けるような流れとなっている。4線の幅は書きやすい大きさで、目的に合わせて英語が示されている。</li> <li>○「話す」「聞く」の言語活動が多く設定されている。左下に Small Talk が示しており、本単元に関連した話題のやりとりをさせることで、既習表現の定着を図ったり、会話の幅を広げたりできるようにしている。</li> <li>○Classroom English として「授業で使える 20 の表現」が巻頭に示してある。</li> <li>○ワードブックの活用の広がりが見られる。</li> <li>○「聞く」「話す」を重視して、児童に英語に親しみながら力を付けていくことができる。</li> </ul>

種 目	発 行 者	採 択 理 由
道徳	日 文	<p>○全教材文について記述できる道徳ノートがあり、自分の考えを書くことができる。問いが固定されて記入されておらず、指導者の児童観や指導観などによる裁量を生かせるようになっている。</p> <p>○いじめの4層構造では、さらに助ける大人が描かれている。</p> <p>○各教材文に中心発問を含む2つの発問が掲載されている。中心発問は、登場人物の価値観の高まりの場面での問いとなっている。他の基本発問は指導者の児童観や指導観などによる裁量を生かせるようになっている。</p> <p>○各教材文の冒頭に、あらすじの一部や登場人物が示されており、児童の内容理解の助けとなっている。また、キャラクターの冒頭での問いが、学習する価値への導入となっており、その価値についてブレずに考えさせることの助けにもなっている。</p> <p>○全ての教材文に二次元コードの資料が付いている。朗読やワークシート、心情メーターやクイズ、相談窓口など、内容も充実している。</p> <p>○道徳ノートを活用することによって、児童の考えを知ることができ、児童も自身の内面を知ることによって成長につなげることができるものとなっている。</p>

※ 発行者名は教科書目録に登載されている略称を使用